熊日1971.01.22

廃液処理に工夫

塩ビ工場に施設開発へ

チッソ水俣

チッソ水俣工場では二十日新しい塩化ビニール工場の火入れを行なったが、この工場から出る廃液を処理するため処理施設の開発を手がけており、これが成功すれば全国でも初めてのものになる。

新塩ビ工場は従来のカーバイドアセチレン法と違って、オキシクロ法と呼ばれ、石油からのエチレンと塩素をくっつける方法。全国でもこの工法を採用している工場は十カ所ほどある。

だが問題はこの工程で出る塩素有機化学物の油。チッソの場合、日産百七十トンといわれ、この中にはカネミ油症の原因となった危険物質も含まれており、利用法もないまま海洋投棄されているのが実情という。

しかし最近、世界的にこのオキシクロ法塩ビ工場の廃液で海洋が汚染されていることが問題となってきたことと、水俣病の苦い経験から、チッソとしては公害防止の建て前から完全な処理施設の開発に乗り出した。

チッソの話では、この施設は四月からの本格操業には間に合わないが、その間の廃液はすべてタンクに保存し、この廃液を燃焼させて塩酸を回収するという。建設費用は一億二千万円以上が見込まれる。完成予定は十月で、成功すれば特許を取りたい意向。